

## 9月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和5年9月27日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 14時40分まで		
出席者	教育長	澤野 幸司	
	教育委員	久世由美子、高橋勝栄、甲斐千尋（※宮田 靖委員欠席）	
	参 与	丸山真二、志道里香、竹光俊司、瀬之口博行、早瀬誠一郎、山田 聡、 工藤靖治、山本栄作、太田康晶、岡田健一、下野隆平、柳田忠春	

### ◎ 議 事

◆議案第14号 延岡市体育館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について  
(保健体育課)

- 保健体育課長より、延岡市民体育館が閉鎖となったことに伴う規則の改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第15号 延岡市北方ふれあい交流センター条例施行規則を廃止する規則の制定について（北方分室）

- 北方分室長より、延岡市北方ふれあい交流センター条例が廃止となったことに伴う規則の廃止について説明が行われ、異議なく承認された。

### ◎ 協議事項について

◆第三次延岡市子ども読書活動推進計画の策定について（図書館）

- 図書館長より、第三次延岡市子ども読書活動推進計画について下記のとおり説明を行った後、協議を行った。

○平成13年当時、様々な情報メディアや機器類の発達・普及に伴い、子どもを取り巻く社会環境が大きく変化したことで、子どもの読書離れが進んできたことが背景となり、国の方で子どもの読書活動を支援するために、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定された。

○この法律は「子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、子どもの健やかな成

長に資すること」を目的としている。また、基本理念として「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」とうたわれている。この法律を受けて、都道府県及び市町村において、「子どもの読書活動推進計画」の策定が努力義務として示されたところである。

○資料の2～3ページに学校読書調査における全国の小中学生の毎年5月の1ヶ月間の平均読書冊数と不読率のグラフを載せている。このグラフについては、ちょうど法律が制定された平成13年から令和4年度までとなっている。2ページの平均読書冊数については右肩上がり、徐々にではあるが読書冊数も増えてきている。令和2年度はコロナの時期で調査がなかったため空白となっている。

○不読率について、中学生は平成13年度には43.7%だったところが下がっている。令和2年度若干増えているが、コロナ明けの反動で部活等が始まったので増えたと推察されている。小学生についても同じような形で、平成13年当時から比べると不読率が下がっている。

○計画書の30ページに、延岡市の令和3年5月、令和4年5月のそれぞれのひと月あたりの総読書冊数と不読率を載せている。小学生については、昨年度の5月は平均で14.5冊、中学生は5.3冊読んでいる。不読率についても、令和4年は小学生が平均で2.8%、中学生が15.9%と、いずれも全国の平均に比べると延岡のほうが良い結果が出ていることが分かる。

○資料4ページに延岡市における子どもの読書活動推進計画の策定状況を載せている。平成19年に第一次の子ども読書活動推進計画を策定した。平成26年に第二次の計画を策定し、子どもの読書活動の推進と環境づくりに努め、家庭・地域・学校が一体となった取組みを進めてきたところである。

○しかし、前回の計画策定から8年以上経過し、スマートフォンやタブレット端末の急速な普及、またそれを活用したSNS等のコミュニケーションツールの多様化や、習い事や塾などで読書に充てる時間的余裕が少なくなったなど、いろんな形での社会環境が変わってきている。そういった大きく変わった社会環境を踏まえながら、子どもが読書の楽しさを知り、将来にわたって読書活動を継続することによって、豊かな生き方ができるような環境づくりを目的とし、乳幼児から切れ目のない読書普及活動を行い、子どもの読書活動のさらなる推進を図るために、今回、第三次計画の策定を行ったものである。

○計画策定について、まず令和4年3月に、市内の小中学校の大規模校、中規模、小規模校、それぞれ1校ずつ及び3北の小中学校、そのうち小学校3年生、

5年生、中学校2年生及び保護者に対してアンケート調査を行った。アンケート結果については、計画書の35ページ以降に載せている。保護者に関しても、どういった方法で子どもが読書に親しんでもらえるかなどの質問を設定し、回答をいただいた。このアンケートを受け、計画策定作業部会で検討し、今回の第三次子ども読書活動推進計画の原案を策定した。原案策定後、図書館に対していろいろな質問や相談を受け付ける図書館協議会に報告及び意見の聴取を行い、最終的には今年の3月にパブリックコメントを行い、市民から意見をいただいて最終的な決定をしたところである。

○計画では3つの基本方針を定めている。1つ目は「家庭、地域、学校等における読書活動の推進」で、家庭、地域、学校等がそれぞれの役割を果たし、子どもが読書の楽しさを知るきっかけづくりや、自主的な読書活動の推進を図る取組みを行う。2つ目は「読書環境の整備・充実」で、子どもが読書の楽しさを知り、自主的に読書活動を行うことができるよう、地域の実情を勘案し、家庭、地域、学校等における、子どもの発達段階に応じた適切な読書環境の整備・充実に努める。3つ目は「子ども読書活動推進の普及啓発」で、全市的に子どもの読書活動を推進するため、子どもの読書活動の意義や重要性について、市民の方々の理解を一層深めるよう普及啓発に努める。以上3つの基本方針を踏まえ、家庭、地域、学校等におけるそれぞれの役割、課題や現状、読書環境の整備充実を次のとおりまとめている。

○まず家庭においては、子どもが自主的に読書をするためには、乳幼児期から本に親しませることが大切であるという観点から、家庭教育学級や7ヶ月児健康相談でのブックスタート、保護者への読み聞かせ講座など、様々な機会を利用して啓発を行っていく。

○地域については、市立図書館とボランティア等の民間団体とに分けている。図書館については、発達段階に応じた図書資料や郷土資料等の充実を図り、図書の企画展示や本のリストを作成・配布するなど読書意欲を高めるよう努めるとともに、ブックスタート事業の実施、参考図書をまとめた特設コーナーの設置、移動図書館による巡回サービスを充実させる。また、電子図書館の開館や障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが読書ができるよう、音声拡大読書器の設置、聴覚資料や電子図書などアクセシブルな資料の充実といった読書環境の整備を進めていく。地域における図書館サービスの拠点施設である北方、北浦、北川の各分館と中央館である延岡市立図書館との連携を深め、図書資料の効果的な活用を図り、SNS等を通じて読書活動に関する情報や取組について、情報発信の充実を図るとともに、図書館司書・職員の資質向上に努めたいと思っている。

○ボランティア等の民間団体については、団体と連携し、おはなし会や読み聞かせ等の活動を支援することにより子どもの読書活動を推進する。また、その

活動に役立つ蔵書の充実や情報収集及び情報交換などの連携強化を推進していく。

○学校等については、幼稚園、保育所、認定子ども園と小・中・義務教育学校の2つに分けている。幼稚園等については、読書活動について、情報交換や研修の機会を提供することにより、子どもが本に親しむための環境を整備するとともに、教員や保育士の読書推進についての資質の向上、市立図書館及びボランティア等との連携をさらに深めていきたいと思っている。小・中・義務教育学校については、本市の学校図書館運営基本方針をもとに、各学校の全体計画作成などを支援する。また、児童生徒の読書活動調査を行うなど、実態把握に努め、利用しやすい環境づくりや図書資料の整備を進め、効果的な学校図書館運営について支援する。また、読書指導のあり方や、蔵書管理の方法などについて研修する機会を設け、司書教諭や図書主任等の資質向上を支援するとともに、市立図書館の学校図書館支援担当職員との連携を深めていきたいと思っている。

○その他、関係機関等の連携協働については、子どもの読書活動を支え、活性化するために、関係機関やボランティア等との連携をより一層図りたいと考えている。

○啓発広報については、延岡市及び図書館の広報誌やホームページ、インスタグラム等を通じて発信している子どもの読書活動に関する情報をさらに充実し、学校、家庭、地域に提供していく。また、市立図書館では、読書活動推進の一環として、春の子ども読書週間、秋の全国読書週間に合わせて、読み聞かせやお話し会、児童図書の展示等、各種行事を行う。さらに、子育て応援コーナーや、中学・高校生向けのヤングアダルトコーナーの設置や本のリスト等を作成し配布するなど、本に対する関心や読書意欲を高め、子ども読書活動の啓発に努める。今後この計画にのっとり、家庭、地域、学校等がお互いに連携をとりながら、子どもの読書活動の推進に取り組んでいきたいと考えている。

◎) これまで読書についてなかなか協議する時間なかったが、今回、第三次延岡市子ども読書活動推進計画についての説明があったので、まずは、延岡市の子どもの読書の推進ということについて協議をしたいと思う。最終的な図書館全体の取組み等に当然関わってくるかと思うので、幅広い視点から意見をいただきたい。まずは説明のあった内容について質問があればお願いしたい。

◎) 計画書の30ページに読書量調査があるが、これは各学校で調べた結果が掲載されているのか。

⇒) 図書館ではなく学校からの情報である。

◎) 読まれた本がどのようなものだったのか把握しているか。

- ⇒) 読まれた冊数だけで、こういったジャンルを読んだのかは把握していない。
- ◎) 中学生になると部活などがあって読む暇はないかなと思うが、小学校は割と多いほうで感心した。どんなジャンルのものかというのも参考になるので、また機会があれば教えてほしい。
- ⇒) 計画書の39ページに、令和4年3月の図書館が行ったアンケートで、小学校3年生、5年生、中学2年生がこういったジャンルを読んでいるかについて掲載している。また、読書冊数について小学校低学年のほうが多いのは、やはり読むジャンルによって内容的に簡単な話のものが読まれるので、そういった形で冊数が違ってきていると考えられる。
- ◎) 先ほどの30ページのデータは学校から上がってきたもので、これは冊数だけ平均をまとめたものだが、39ページは図書館が、対象学年を絞って、この推進計画を立てる際に調査した結果で、対象は同じではないが、傾向はこれでよく分かるという説明であったかと思う。先ほど説明があったように、全国の読書率とか不読率からすると、延岡市の子どもは比較的良好に読んでいるという傾向があり、委員もそういう感想とのことだが、何故こういう結果に結びついているのか伺いたい。
- ⇒) 私の個人的な考えだが、やはりそれぞれ学校や保育園、幼稚園において読書に関するいろんな取組みをやっていただいているおかげでそういう結果になっているんじゃないかなと感じている。
- ◎) 末子が5年生だが、漫画でさえも読む文化がもうないというか、スマホでYouTubeを見たり等の方が当たり前で多くなっているような気がする。床屋に行くと漫画がずらっと並んでいるが、自分たちの番が来るまでちょっと待つ時間があっても、漫画本の方には手を伸ばさずに、横にゲームみたいなものがあつたら、そっちにまっしぐらみたいな感じである。親である僕たちも仕事の関係もあって、なかなか家で読書をするっていう時間がない家庭でもあるので、家庭環境がそうなっているのも一つの要因だと自分たちももちろん反省をしている。ここのアンケートにも書いてあるが、雨が降っていて、海が荒れているから、何か代わりに、何か子どもたちと何かしようかって言ったときに、図書館に足を向けるっていう文化も、僕たちが子どもの頃よりももっと図書館というものの存在がすごく少なくなっているような気がしている。先ほども各学校の取組みであった表彰制度などは僕らの時代にもあって、あまり本を読まなかった僕らでも、そういう時には

何かしら読んでいたような気がするので、学校の中に、せっかくいろんなジャンルの本があるので、図書室に行って本を読める、読む機会を何かイベントなりなんなりで作ることで、少しでも本を読む文化ができてくるようになるのではないかなど、保護者としては思っている。

◎) ちなみに、市立図書館でも館長を中心にいろいろな図書館でのイベントを組むなど、読書にいきなうような催しも行っている。好評だったものなど紹介してほしい。また、3北の分館の状況も伺いたい。

⇒) 令和2年度から実施している事業の中でブックスタートという事業がある。これは乳幼児の小さい子どもに、最初にファーストブックということで1冊の絵本をプレゼントするというもので、令和2年度からだったが、2年3年はコロナの影響で実施できなかったで、実質的には令和4年度からスタートした。7ヶ月の子どもの健康相談のときに、子どもと保護者に対して司書職員が読み聞かせを行う。子どもはしっかりと絵本を凝視して、ページをめくると目で追っていく。そういった形で、小さいころからの読書、そういった習慣づけがあればいいかなど思っている。その他、図書館で毎週、お話会を実施している。こちらの方にもブックスタートで増えた保護者の方と子ども、それから新規で来られる方が昨年度ちょっと増えたので、そういった形での効果が上がってきているのかなと思う。今回夏休みの企画・展示の一つとして、小中学校に自分たちが読んだ本のポップカード、簡単にハガキ大の用紙に本の名前と絵なども大丈夫で、そういったものを夏に募集しており、募集を受けたものをまた10月に図書館で企画展示で皆さんに見てもらおう取組み、そういったものも行っていきたいと思っているので、そういった形で、いろいろ子どもたちが読書を楽しんでいただく雰囲気を作っていきたいかなと思う。

◎) 分館の利用の状況や子どもたちの様子について伺いたい。

⇒) 計画書の20ページの表にあるが、現在小学校の図書室の支援を月1回、中学校の図書室の支援を2ヶ月に1回程度行っている。こちらは本の分類もだが、委員が言われたように、読んでもらえるように、ポップを考えたりとか、分館の職員と本館の職員の支援を受けながら、これにボランティアの方も加わっていただいて、小中学生がより本に親しんでいただけるように取組んでいる。それから、小中学生の読書率が延岡市は高いという取組みの一つ、保育園への出張読み聞かせ、これについては21ページの角田保育園のところ

にあるが、図書館の分館の職員が毎月30分程度だが、本を10冊程度、紙芝居も含めて持って行って読み聞かせを行っている。小学校においては、現在図書ボランティアの活動をしていただいております、2学期は行っていないが、1学期中には4名の方が小学校1年生から6年生を対象に読み聞かせを行っている。

⇒) 概略については計画書の23ページから24ページにある表の方に載せている取組みを進めている。その中でも北浦分館での事業を簡単に紹介すると、まずおはなし会というものがああり、これは館内と、出前のお話会ということで、令和4年度は北浦小、三川内小、それから地元の保育園等で、合わせて出前を13回ほど行った。出前は参加者が438名ということでかなり好評である。それと5月と11月の読書週間記念行事においては、館内で読書週間におすすめの本のミニ展示を行ったりしている。同時にブックリサイクル、自由に持ってきていただいて、興味のある人には自由に本を持って帰っていただくということで、昨年度は100冊ぐらゐの実績がある。また、ハロウィンのお菓子作りとか、そういったものも週間行事に合わせて行っている。夏休み期間中については、昨年はコロナの影響でできなかったが、そのときは小学生50人ほどに塗り絵の配布をした。その他、毎月、季節に応じて、新刊とか、季節に応じた本の紹介を行ったり、或いは毎月その季節に応じて、月1回、いろいろなおもちゃづくりであるとか、或いはクリスマスの時期はクリスマスのものでづくりとか、節分であるとか、幼児から小学校低学年に対して、そういった取組みを行ったりしている。啓発、周知については、支所だよりにおすすめの本を紹介したり、次の月のイベント案内を載せて、積極的に利用していただきたいということで、そういう取組みを行っているところである。

⇒) 資料の24ページの②の地域という項目があるが、もともと合併前から北川町は個人宅等にせせらぎ文庫を設置したり、あと移動図書館、北川町は面積が広大なのでせせらぎ号という移動図書館、ここに本を載せて町内を巡回して本を貸し出す活動をしており、そういったことにより、読書推進大会や生涯学習推進大会等で、文部大臣等から表彰を3回いただいているような土壌がある。そういった中で学校に対しては、当然ながら読み聞かせ等も行っているが、先ほど言ったせせらぎ号も月1回小学校、中学校にそれぞれ本の貸し出しに伺っているところである。33ページの資料を見ると分かると思うが、北川分館の児童書の冊数の割合が非常に多くなっている。こちらは先ほど言ったせせらぎ号の活動等もあるし、親の世代の

方々が昔から本を読んでいる、そういった姿を見て、子どもたちも続いて読んでいるのではないかと考えている。

- ◎) 子どもたちが他の地域に比べると読書率が高いっていうのも、いろいろいざなう活動が、それぞれで行われているというのものもあるのかなと思って話を聞いたところである。
- ◎) 読み聞かせていうのは、保護者とか先生が生徒や幼児に聞かせるものもあるが、高学年が低学年に読み聞かせるというものも入っているという理解でよいか。以前は結構やっていたと思うが今もやっているのか。
- ⇒) 昨年度も秋の学校での読書活動で、方財小学校で5、6年生が1、2年生に、読み聞かせ活動をしていたということもあるので、先生とか親だけじゃなくて、学校の高学年がそういった活動を行っている。
- ◎) 今も多読賞などの表彰をされている学校もあるが、それをやっているところは、読む生徒が増えたりしているものなのか。読む人が決まっていて、その冊数だけが増えているのか、その辺はどうか。
- ⇒) 学校個別には把握していないが、やはり読む生徒を表彰することによって、やはり刺激になったり、よい見本になると思うので、そういったことで周りに与える影響が大きいんじゃないかなと思う。
- ◎) 各学校によって随分取組みに違いはあるんだろうなと思う。大規模校、小規模校でも取組みにはいろいろ差があるんだろうなと思う。それぞれいろいろ取組みをしているんだろうと思うが、学校での取組みについて伺いたい。
- ⇒) 学校図書の本数についての整備率であるが、県内9市の中では、延岡は下位である。100%整備しておかないといけないのに、90%とか、率が低い状況である。これについては2、3年前から図書の予算を増やして整備率を上げ、1年間で2%、3%でもいいので上げていく努力をしているところである。また、各学校での廃棄の仕方も各学校でバラバラのような気がするので、図書館の職員が学校に回っていただいている時に、廃棄等に関するアドバイスもいただきながら、図書室の充実に努めているところである。
- ◎) 整備率も非常に大事である。整備率を上げようと思えば廃棄しなければいいのだが、本当にそれでいいのかという議論もある。難しいところもある。ただ、整備率だけで、いろんな本の、図書館の充実が図れるかという、また別の様な気もするが、子どもたちにとって意義のある本はやっぱり学校も当然欲しいと思っているし、先ほど言ったように、以前に比べると、その整備をするための予算

は増やしてきているので、その中でいろいろ工夫はしてもらっているんだと思う。ただ今話を聞いていると、やはり小さい頃からの本に対する興味関心を高めていくことは、せっかく立派な推進計画ができたので、これを実現させていく上ではとても大事なポイントになるんだと思う。やっぱり人というか、いざなっていくための仕組みづくりというか、それには非常に大事な部分があるんじゃないかなと思うが、何かその辺り、こうしたらいいんじゃないかなど、意見等あればお願いしたい。

- ◎) 子どもたちの興味のある本みたいなものも、多分僕らの時代とちょっと変化して、結局本を揃えても、子どもたちの興味がないものばかりを揃えていても意味がないのかなと思う。ただ、僕たちが学校訪問に行き、図書室に行き、こんな本があるんだとか、こんな興味がある子にとってはたまらないだろうなというのがあるけど、それが読まれなかったりしているのかなと思う。アンケートにあるようにゲームとかクイズとか、今テレビ番組でもクイズとか多いが、それにすごくうちの子どもたちも好きで、うちに集まる時に、なぞなぞの本など、今日は末子が担当で出題して、その周りの子が答えるのだが、その内容がどうなってるのかとか、どういう形式で出てるのかというものに興味があって、他の子もそれを見たりっていうのを見ているので、遊ぶところなんだけど、何かどこか子どもたちが興味を持ちやすい仕掛けみたいなものも一つ要るのかなというのがある。また、先ほど言ったように、うちでは僕もほとんど本を読む時間がないが、今ちょっとうちの父親の体調が悪くなってからその時間が特になくなっていて、時間がある時に、テレビをあまり見ない日っていうのをやって、ペランダで子どもたちと好きな本を持ってきて読もうという時間を作っている。基本、持ってきている本は好きなものを持ってこさせるが、その時間帯はやっぱり親が言ったから半強制的な部分もあるのと思うけど、そういう時間はつくれているのかなというふうに思うので、僕はずっと何かここがくすぶっているところなので何かそういうきっかけになるようなことができる、もうちょっと日頃読まない子も読む時間が増えたりするのかなというふうに思う。

- ◎) 子どもたちを指導していく中で、競泳だけとかそういう泳ぎだけを指導するんじゃないかと、何回かここで言ったことがあるが、活字から離れるなよっていうことをよく言っていた。漫画でも何でもいい、試合とか合宿に行くときには何か持って来いよっていうことを言って、ずーっと続いたのが松田（丈志）である。そこでよく考え

てみると、先ほども出たように、お母さんがすごく本を読まれるって話を聞いて、やっぱりこういう環境は小さいときからやらないとなかなか難しいんだなっていうふうに皆さんの話を聞きながら思った。海外に行くときはもう何もないし、何でもいいから本を持ってこいと言ったら、20冊ぐらい漫画を持ってきた子がいた。松田はいつも本を持っていて、飛行機の中でも読んでいるタイプ。時間があれば本を読んでいるっていうことで、活字から離れなくなるし、その子は今指導者になっているが、そういうふうにやっぱり教えてやらないと分からない。ただ「やれ」じゃなくていろんなことを教えてやっていくと、すごく子どもたちがいろんなものに興味を持つんじゃないかなっていうふうに、今聞いていて思った。ただ与えるだけじゃなくて、何か興味を持つような感じで、一言二言付け足していくと、今、委員がやっておられるように、何か持ってきてベランダでやろうよっていうのもすごくいいことだなって思うので、この学校の図書室、市の図書館、ただ集まるだけじゃないと思う。そういうところでいろんな形で提案をしていって、もっともっと好きになるといいよなって思った。

- ◎) これまでの話からするとこの推進計画に基づく活動というのは非常に重要なことであると。「読め」というだけでは読まないということははっきりしているの、いざなうための仕掛けづくりというのは必要なんだと思う。例えば、子どもたちに学校も読書しなさいという指導はするのだけれど、図書室にその魅力がなければ、やっぱり図書室に行っても、自分で選ぶ前に、何か魅力的だなって思うような環境づくりができるかどうかってというのは、先ほどあった図書館や分館がいろいろ工夫されているようなことが学校の中でも大事なことなんだろうなと思ったときに、学校の中に、図書の担当の先生がいるが、学担をしながらなので、なかなかそこに時間が取れない。そういうことを考えると、学校の中にもそういう読書をいざなうための、推進をしてもらえよう人、これは教員免許持っていなくてもいいんだらうなと思うが、こういう方々がいて、その方々が分館や図書館と連携をしながら、いろんなことをやっていくっていう形は先ほど委員が言われたようなことに繋がっていくのかなと思う。幸いなことにこの後、総合教育会議があり、今回の柱が「学力向上」になっているので、その学力向上に直結するかそういうことよりも、子どもたちのそういった学びの力をつけるために、こういう議論があったということ、また市長に委員からも、いざなうためにはやっぱり大事じゃないかっていう話をしていた

だくと、ちょうどいい機会ではないかなと思う。

◎ その他

◆ 10月定例教育委員会の日程について（総務課）

- 10月定例教育委員会については、10月25日（水）の14時30分から、延岡市立熊野江小学校の図書室で開催する。

- 10月11日をもって退任される高橋勝栄教育委員に挨拶をいただいた。

◎ 閉会

澤野教育長が閉会を宣し、終了した。（14：40）